



### 1人1台端末活用ポイント

- ・ペアの片方の生徒にだけ画像を配信し、インフォメーション・ギャップを作る。

### 授業のポイント

- ・学習指導要領 「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。」
- ・佐賀県CAN-DOリスト
  - 「読む」 日常的な話題について、標準的な英語で書かれた比較的長めの物語やまとまりのある文章の要点を理解したり、必要な情報を抜き出したりすることができる。
  - 「話す〔発表〕」 日常的な話題について、基礎的な語句や文法を用いて、出来事や気持ちを詳細に話して伝えることができたり、発表内容について即興で質疑応答することができる。
  - 「話す〔やり取り〕」 日常的な話題について、基礎的な語句や文法を用いて、出来事や気持ちを詳細に相手に伝えることができ、即興で質疑応答することができる。
  - 「書く」 日常的な話題について、辞書をそれほど使わなくても、聞いたり、読んだりした内容について、多様な語句や文法を正しく用いて、感想や意見などを複数の段落からなる文章で書いて伝えることができる。

### 授業の流れ

1時間 (1/6時間)

導入	展開	まとめ
①あいさつ ②インフォメーション・ギャップ(ペアワーク) 生徒A 端末に表示された画像を説明する 生徒B 説明されたことをもとに絵を描く ③生徒Bが描いた絵を、電子黒板に共有する。	④導入の画像について考察する。 ⑤新出単語について推測する。 ⑥本文のポイントに下線を引く。 ⑦文構造を理解する。	⑧本文の内容について、理解した情報を基に、思考を広げ、感想や意見などを複数の段落からなる文章に書いて伝える。

活用ポイント  
画像共有

詳細はICT活用教育「プロジェクトE」サイトまで  
<https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/list01913.html>



導入



Bの生徒は、聞き取った情報をもとに絵を描きます。

生徒Aの端末に画像を配布します



生徒Bの絵を電子黒板で共有

展開



画像を電子黒板と生徒全員の端末に配布します

生徒は、配布された画像を見ながら、思考を深めます。



生徒は電子黒板に表示される情報をもとに、その単語の意味を推察します。

画像を配布し、深い思考に繋がるよう、促します

展開



画像を確認しながら作業ができるように、生徒の端末には画像を提示したままにしておきます

文構造を確認しながら、理解を深めます。

令和3年10月27日（水）伊万里高校にて、英語教育推進リーダーの河東教諭による外国語科の授業を実施しました。

CAN-DOリストを活用することで、授業における言語活動の目的が焦点化され、教員と生徒が言語活動を行う目的を共有することができます。また、河東教諭の授業では、生徒の一人一台端末に画像を配付することでインフォメーション・ギャップを作り出し、それをコミュニケーション活動の基礎とします。端末で情報格差を意図的に作り出すので、生徒の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが可能です。